

## 1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、自他の生命を尊び、知・徳・体の調和のとれた明朗で健康な人間の育成を目指して、次の目標を設定する。

- ◎人権尊重の精神と態度を養う。
- ◎自ら学ぶ意欲や態度を育て、豊かな情操を養う。
- ◎健康でたくましい心身を育て、自律的な生活態度を養う。

＜めざす児童像（具体目標：かいどりの子）＞

- 「か」：◎考える子                      進んで学び、深く考え、行動できる子
- 「い」：○思いやりのある子        互いに理解し合い、協力し合って仲良くする子
- 「ど」：○努力する子                最後までねばり強くやりとげる子
- 「り」：○体力のある子            進んで体力向上を図り、健康や安全に気をつける子

## 2 学校経営方針（学力向上に関わる要点）

- ① 指導計画・評価計画の確実な実践と学力向上に向けた授業改善を図る。
- ② 校内研究を通して指導力を向上させ、各教科等における問題解決的な学習を進め、基礎的・基本的な事項を定着させ、「考える力・表現する力」を育む。(ESDの視点に立った学習指導の推進)
- ③ 学習過程、学習形態、学習活動を工夫した授業を推進する。  
「授業のユニバーサルデザイン」化を踏まえた問題解決的な授業を充実させる。
- ④ 基本的な生活習慣、学習規律を身につけさせる。
- ⑤ 読書活動をより積極的に推進し、さまざまな文章を読む習慣を形成すると共に、言語能力の向上を図る。(ESDの視点に立った学習指導の推進)
- ⑥ 個に応じた指導を実践する。
  - ・つまづいている児童への適切なサポート
  - ・少人数授業の充実、複数の目できめの細かい指導の推進
  - ・ピアティーチャーと連携した個別指導
- ⑦ 栽培活動・愛鳥活動・環境学習を問題解決的な学習を推進し、「課題を見つけ、自ら学び・考え・判断し、よりよく問題を解決する資質・能力」や協同的に取り組む態度を育てる。(ESDの視点に立った環境教育)
- ⑧ 教科との関連を図った生活科、総合的な学習の時間の実践の充実(ESDの視点に立った学習指導の推進)
- ⑨ 地域の人・自然・文化等を活用して体験的な学習を充実し、学習への興味・関心・意欲を高めるとともに、基礎学力の充実を図る。
- ⑩ 教科、道徳、総合的な学習の時間等で、オリンピック・パラリンピック教育を推進する。
- ⑪ 外国語活動を通してコミュニケーションの楽しさや言葉の面白さを体験させ、コミュニケーション能力の素地の育成を図る。
- ⑫ 楽しい効果的な授業を創造するためのICT活用教育の推進
- ⑬ 通常の学級とみどり学級の児童が、共に認め合い、共に学び合う交流及び共同学習を進める。
- ⑭ 進んで体を動かし、体力を高める子を育成する。  
(オリンピック・パラリンピック教育推進校の取り組み)
- ⑮ 「補習授業」「家庭学習」を充実し、基礎的・基本的な事項の定着や学習・読書習慣を身に付けさせる。
- ⑯ 以上のように、学力向上に向けた意図的・計画的な授業改善が図れるようにOJTを推進する。

＜平成27年度校内研究＞

研究主題を『問題解決的な学習を充実し、考える力、表現する力を育成する。～授業のユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、生活科・理科の授業を工夫して～』とし、考えたり表現したりする必然性のある学習過程を取り入れ、「授業のユニバーサルデザイン」を踏まえた学習や学習環境づくりを、講師を招聘した研究授業を年間3回行うなどしながら進め、研究成果を日々の授業に生かしていく。

## H27・児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果の分析と改善策

【内容および観別点の分析における到達度について】

今年度の東京都抽出校の平均値と比較してのものです。

到達度の表現については、平均値との開きをもとに、下の表のように定めた。

十分に満足できる	平均値を4点以上上回っている
満足できる	平均値よりも4点未満上回っている
概ね満足できる	平均値よりも、-1点未満下回っている
一部に課題あり	平均値よりも、-1点以上-4点未満下回っている
十分とはいえない	平均値よりも、-4点以上下回っている

### 1. 国語 内容および観点別の分析

H27	A 教科の内容					B 読み解く力に関する内容		
観 点	関心・意欲・ 態度	話す・聞 く	書く	知識・理 解・技能	読む	取り出す 力	読み取る力	解決する力
到達度	概ね満足で きる	十分とは いえない	十分とは いえない	十分とは いえない	十分とはい えない	十分満足 できる	満足できる	一部に課題 あり
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読む」領域では、文章の内容をおおまかにつかむことはできるものの、自分の考えを明確にしながら読み深めることができない。自分の考えを明確にしながら読み深めることが課題である。</li> <li>・「知識・理解・技能」領域では、国語科における基礎・基本（漢字の読み書き・語彙など）に課題がある。</li> <li>・「書く」領域では、書く題材のために必要なことを集めたり、文の簡単な構成を工夫したりすることが不十分である。</li> <li>・「話す・聞く」領域では、昨年度の改善策により改善傾向にあるが、話の構成を考えて話すことや話し手の意図をとらえながら聞くことについては課題がある。</li> </ul>							
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読む」領域においては、音読を授業に位置付け、家庭学習として習慣化を図る。また、語と語、文と文、段落と段落の関係などに着目し、文章に即して話の中心を押さえながら読むことができるように指導し、より積極的に内容をつかみ、自分なりに理解し分析するような学習指導を進める。</li> <li>・「知識・理解」に関しては、「東京ベーシックドリル」を活用し、いろいろな語句や文章構成についての確認を行う学習を進める。さらに、積極的に辞書を引かせるなどする中で、漢字の読み書きや語彙力などの基礎的・基本的な力を高める。</li> <li>・「書く」に関しては、日常的に日記に取り組みさせるなど、自分の思いを文章化させる活動を計画的に取り入れる。また、書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて文章を書くことができるよう指導する。</li> <li>・「話す・聞く」では、国語を中心とした各教科の中で、目的に応じて、工夫しながら話したり聞いたりすることができる学習指導を進める。</li> </ul>							

## 2. 算数 内容および観点別の分析

H27	A 教科の内容				B 読み解く力に関する内容		
観 点	関心・意欲・ 態度	数学的な考 え方	技能	知識・理解	取り出す力	読み取る力	解決する力
到達度	一部に課題 あり	満足できる	十分とはい えない	十分とはい えない	一部に課題 あり	十分とはい えない	十分とはい えない
課 題	<p>・読み解く力に関する内容を見てみると、「取り出す力」以外の2観点において十分とはいえない結果であった。特に「解決する力」では、問題解決に適した考え方を適切に活用するための力の育成が課題である。学習課題に対して、自分なりの解決方法を表現する力を育成することが課題である。</p> <p>・「数学的な考え方」に改善が見られた一方で、「技能」と「知識・理解」の領域にかかわる力の育成が課題である。</p>						
改善策	<p>・「読み取る力」や「解決する力」に関しては、問題解決的な学習の一層の充実を図る。特に、「解決する力」に関しては、児童が、既習の考え方の中から、よりよい考え方を見つけ、それを活用できるよう指導の充実を図る。そのために、自力解決を行う時間を確保し、多様な考え方を関連づけて説明し合う活動をさらに充実する。</p> <p>・学習内容を定着させるために、習熟のためのプリントやドリルに取り組みさせる。その際、「東京ベーシックドリル」を効果的に活用し、個に応じた学習の積み上げを行い、技能や知識・理解の定着を図る。また、算数の用語を自分のものとして使えるようにさせるために、一人一人の考え方を発表し合うような言語活動の場を取り入れる。</p>						

## 3. 理科 内容および観点別の分析

H27	A 教科の内容				B 読み解く力に関する内容		
観 点	関心・意欲・ 態度	科学的な思 考・表現	観察・実験の 技能	知識・理解	取り出す力	読み取る力	解決する力
到達度	満足できる	概ね満足で きる	一部に課題 あり	概ね満足で きる	十分とはい えない	概ね満足で きる	一部に課題 あり
課 題	<p>・教科の内容を見てみると、改善策を実施したことにより、昨年度の課題点とされた「知識・理解」と「読み取る力」の領域に向上が見られた。その一方で、「取り出す力」の数値が下がり、学習課題を正しく捉え、必要な情報にしっかりと着目して問題解決を行う力が十分に高まっていないことが課題である。</p> <p>・どの項目も平均的な出来である中で、「観察・実験の技能」が他に比べて低い。</p>						
改善策	<p>・「取り出す力」については、必要な情報を取り出すために、一つ一つの自然事象をより正しくつかんだり、分析的に考えたりする指導を充実させ、児童に学習問題を正しくつかませるようにする。また、一人一人に自分なりの予想を立てさせ、明確な目的をもった状態で実験・観察を行わせ、課題から逸れずに問題解決に取り組めるようにさせる。</p> <p>・「観察・実験の技能」を高めるために、「東京ベーシックドリル」を積極的に活用し、実験器具の扱い方や実験の方法・手順など、基礎的・基本的な学習事項の確認・定着を図る。</p>						

#### 4. 社会 内容および観点別の分析

H27	A 教科の内容				B 読み解く力に関する内容		
観 点	関心・意欲・ 態度	社会的な思 考・判断・表 現	観察・資料活 用の技能	知識・理解	取り出す力	読み取る力	解決する力
到達度	十分とはい えない	概ね満足で きる	十分に満足 できる	十分に満足 できる	十分とはい えない	十分とはい えない	一部に課題 あり
課 題	<p>・読み解く力に関する内容に関しては、いずれの項目についても課題が見られた。特に、「取り出す力」・「読み取る力」の2項目で、力が発揮されていない。読解力に加え、取り出した情報どうしを比較したり関連づけて考えたりする力の育成が課題である。</p> <p>・教科の内容については、「興味・関心・意欲」を高めることが課題である。</p>						
改善策	<p>・読み解く力に関する内容の各項目に関しては、児童が、資料等から取り出した複数の情報を、比較・関連付け・統合することで、社会的事象相互の関連、社会的事象の意味や特色について考えることができるよう、教師が意図的な発問を十分に工夫するなどして、問題解決的な学習をより充実させる。また、そうした学習の基盤となる基礎的・基本的な学習事項の確認・定着を図る。</p> <p>・「東京ベーシックドリル」を効果的に活用し、個に応じた学習支援を行い、基礎的・基本的な学習事項（方位・方角、地図記号、都道府県の位置など）の定着を図る。</p> <p>・児童がより身近に感じられる課題を設定し、観察や調査、見学などの体験的な活動やそれに基づく表現活動の充実を図り、より主体的な問題解決が展開されるよう指導計画を工夫する。その際、単元の内容に即して、児童が、自分の生活とのかかわりから社会事象をとらえることができるような学習問題を設定し、興味・関心をもち意欲的に学習を進められるように指導を工夫する。</p>						